

## 体操とヤーンについて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2011-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村山, 鉄次郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/9376">http://hdl.handle.net/10291/9376</a>

# 体操とヤーンについて

村山鉄次郎

## 1. 体操の意味

体操は *Gymnastics* (英), *Gymnastik* または *Turnen* (独), *Gymnastique* (仏), などで表わされるように、その語源を「裸」を意味するギリシャ語の *Gymnos* という語に発する。元来、ギリシャでいう *Gymnastik* とは走・跳・投やレスリング、パンクラチオンなどの運動を広く包含したものであり、後になって、身体運動のほかに入浴、塗油、マッサージなども含めた「身体の手入れ」の意味に用いられていた。古代ギリシャにおける「スポーツ医学の父」といわれるヒポクラテスやヘロディオスによって食事と運動の身体に及ぼす影響が考えられていたし、運動に関してはヘロディオスによって医療的体操の体系が考えられている (B. C. 5 世紀)。ローマ時代には、ギリシャで生れ、ローマで競技者たちの医者として数年間働いていたガレノスは、後期のギリシャの体育について研究し、やはり食事と運動の関係について述べた。また、身体運動を、筋肉に緊張を与える運動、速い運動、激しい運動に分けて身体各部の運動による影響を医学的見地から述べている。

中世においては、この時代は体育不毛の時代といわれるが、教会の精神優越の観念からすれば身体的訓練は抑圧されるのが当然であったとしても、それを必要とした騎士階級や身体運動をスポーツとして楽しむ民衆によって受け継がれて徐々に体系化されて近世に至るのである。

近世になってグーツ・ムーツはギリシャ本来の運動を採用し、*Gymnastik* と呼んだが、ヤーンもこの運動をとり入れ、彼の愛国的精神からこれを *Turnen* と呼んだ。もっとも、ここではギリシャ時代そのままの運動ではなく、走・跳・投・レスリングのほかフェンシング・運搬・行軍・水泳・登攀・平均・体操

・跳馬・水平棒・平行棒などであった。

ヤーンの精神的（意志的）な運動に対して、医学的立場をとる点でヘロディコスの流れをくむリングのスエーデン体操が生れた。リングは生理学、解剖学の立場に立って目的にかなう体操として医療体操、教育体操、兵式体操、美的体操の4種類に分け系統化した。リングのスエーデン体操に対して、関節の可動性を高め、筋肉の力、神経の敏捷性を増すとするブックのデンマーク体操が生れた。一方、Turnen は、戸外での自然運動から器械を中心とする運動として室内に入り始めると、現在の体操競技の性格を明確にするのである。特にメッテルニヒ時代の Turnen 禁止令で体操協会が室内で密かに練習せざるを得なかったことも戸外自然運動的なものから器械運動への変貌を余儀なくさせた。これが現在の体操競技の先駆である。他方では、ドイツを中心として新しい体操が生れてきた。すなわちリズム体操と呼ばれるボーデに代表される、表現を目的とした徒手体操である。

このように体操と呼ぶ場合、体操の意味はいろいろあるが単に体操と云う場合には、主としてヤーンの流れをくむ器械を使用しておこなう体操を意味することが多く、明確にするために器械体操と呼ぶことがある。

## 2. 体操の発生

体操の特徴となる運動形式は、日常生活における身体活動の範囲外で、より難しい運動を自分の意志に従っておこなうものであるから、身体支配を直接の目的とする運動でなければならない。このような意味からいって、体操の直接先駆となる運動はすでに原始時代から始められたと考えることができる。

遺跡の発掘などによって、その出土品や古代の壁画などにみられる絵や調刻などにみられるアクロバティックな運動の姿を表現したものが各地にみられ、人類が軽業的運動をおこなったのは世界的に普遍的なことだったと思われる。これらの特殊技能は、踊りや斗技などと共に、権力者の前に披露される見世物となり、やがて職業としての軽業師の発生をみることができる。ホメーロスのオデュッセイア第4巻「ラケダイモンにて」の中に——このように誉れ高いメネラ

一オスの近隣のものや家の子たちは高い屋根の広間で賑々しく宴を張り、かれらの間で尊い豎琴を弾じ歌い、歌をはじめるとそれに合わせて二人の軽業師が人々の間でとんぼ返りをうって廻った。——とあるように、すでにこの時代に軽業師がおり、エーゲ文明時代においてさえすでにそれらしきものがみられる。

一方、イタリア生れの、フランス宮廷で跳躍師範をしていたツカロ (Saint Archange Tuccaro) は1599年に *Trois dialogues de l'exercice de Sauter et Voltiger* を書き、その中で跳躍運動の解説をかなり詳しくしている。

また、鞍馬と跳馬の祖先となる木馬運動はすでに古代ローマの兵士や若者たちによっておこなわれていた。古代ローマにおいては、乗馬練習の準備段階として木馬運動をおこなった。軽装で乗馬練習(木馬を使って)をし、馴れるにしたがって、だんだん武装して乗ることを練習したといわれる。高い所にとび乗る練習や片手に武器を持って乗る練習など、危険を少なくして、技術を早く身につけようとする方法の歴史的な価値を認めなければならない。実用主義をモットーとしたといわれるローマ人の創意をみい出すことが出来る。しかし、彼らが目ざしたところは身体運動の可能性の追求ではなく、いかにうまく重装備で馬に乗ったり降りたりすることができるかであった。そのための練習過程であった木馬運動が、ローマ兵士達によってヨーロッパ各地に普及され、やがてグーツ・ムーツやフィートらによって学校体育の教材として、乗馬に関係なくとり上げられることによって体操の性格を持つてくるのである。ここでは乗馬が目的ではなく、木馬運動それ自体が目的になってくる。とび乗り、とび降りの際のあしさばきが、両手の支えの使い方とともに鞍馬運動の前身となり、両手をつき離してのとび越しが跳馬の本質である支持跳躍の形式となる。鞍馬としては手の握りや腕の支えが容易になるように、鞍の部分が発展して把手となり、跳馬としては手をつき易くするために背中が平らになり、把手もないものになる。また、不必要な部分として、首や尻尾がなくなってくるのである。しかし、ヤーンの頃にはまだ尾がついていたといわれる。この木馬運動が鞍馬運動と跳馬運動に明確に分化したのははっきりしないが、フリーゼンやアイゼレン、リオンの時代でヤーンの後であるとみられる。

鉄棒の直接の前身はヤーンの木で作られた直径 8 cm もの太さの水平棒であるが、運動形式では、木の枝での懸垂運動や綱渡りの綱、水平梯子、グーツ・ムーツの斜登横木の懸垂運動などがあげられる。ヤーンの水平棒が鉄棒に変わったのは1850年以後であったといわれている。握りの太さが細くなったのと鉄の弾力を利用することで鉄棒運動の内容は大きく変わり発展した。

また、平行棒もその成立にヤーンが大きな役割を果たしている。平行棒の発生には種々の説がありあまり明確ではないが、木馬練習の足場から発達したとか、馬の曲乗り練習の棧敷から発達したものだとかいわれるが、ヤーンがベルリン郊外のハーゼンハイデに体操場を作ったときに、木馬運動が、生徒たちにとって、腕の支持力が弱いために困難だったので、これを強化しようとして利用することになった。ヤーンによって **Barren** と名づけられ、振動運動もでき力も使うことができ、両腕の支えが安定しているために、この運動は非常な発展をみた。しかしながら、一方ではこの運動に反対するドイツ人もあり、ヤーンの体操支持者と反対派のロートシュタインを旗頭とするスエーデン体操信奉者との間に、有名な平行棒論争がまき起されるのである。1850—1863年間にわたって論争がおこなわれ結局ツルネン派が勝利を得たが、ドイツ体操（ツルネン）に大きな反省の機会を持たせることになった。

均衡能力を養うための平均台はバゼドウの体育の中ですでにみられるが、グーツ・ムーツやフィートによって体系づけられると同時に内容も豊富にされ、シュピースは低い平均台を女子に使用させている。

ドイツ体操の中であまり普及されなかった吊輪は、シュピースによってとり入れられたが、ローマ時代においてはすでに抵抗運動の一つとして、綱の端をまるめて結び、輪に足を入れたり、ぶらさがったりすることがおこなわれ、その発生は古い。

### 3. 教育としての体育

1774年アンルルト公の領地デッサウに自然主義的汎愛学校が作られた。これを建てたのは **Johann Basedow** (1724~1794) で、ルソーのエミールの影響を

強く受けていた。この学校の特色は手工、園芸とともに、遊戯や剣術、乗馬、踊り、体操などの身体活動であった。

1776～7年の間体育教師をしていた Johann Friedrich Simon はダンス、フェンシング、乗馬の授業をしたが、小さな子供達には難かしかったので、走・跳・投や平均、運搬運動とボールゲームを教えている。彼の後継者 Johann du Toit は水泳、スケート、射撃、弓、軍隊的行進や遊び、田園へのハイキング、木の細工、園芸、歌、朗読などを教えた。

Christian Salzmann (1744～1811) によって建てられた Schnepfenthal の汎愛学校では、最初の体育教師 Christian Carl André は1786年まで1年間教えたが内容は、体操、標的投げ、走、跳やハイキングなどであった。彼の後継者としてこの学校で体育を教えたのは、Johann Friedrich Guts Muths (1759—1839) であった。彼はここに50年間つとめてドイツ体育に多大の貢献をなしたのである。

Guts Muths は Halle の大学を卒業したが、そこで数学、物理学、神学、現代語学、教授法を学んだ。彼は Schnepfenthal で教鞭をとり、体育を、木で囲まれた戸外の広場でおこなった。1793年彼は「青年の体操」を出版した。その中で彼は(1)歩行と走、(2)フリーに又は器械での跳躍、(3)持上げ、運搬、引き、突き、レスリングなどの背筋運動、(4)フェンシング、(5)登攀、(6)器具での平衡訓練、(7)投擲、弓、(8)水浴び、水泳、(9)柔軟体操、(10)ダンス、(11)センスをやしなう体操に分けている。

このように学校教育の中に体育がとり入れられると同時に、グーツ・ムーツによって、全身的調和的運動としても体系化されてきた。汎愛学校におけるグーツ・ムーツは、汎愛教育思想の影響を強く受け、自然人の体力と文明人の知識を調和的に備えた世界市民的な人間像を描いていたが、イエナの敗戦や開放戦争の体験から、国家市民の人間像へとその理想像が変わっていく。グーツ・ムーツはほかに多くの著書を表わし、彼の体育と思想は、各国に大きな影響を与え、ドイツ国内では、ドイツ国民体育の祖父といわれる。ドイツ国民体育の父といわれるヤーンもはじめは、このグーツ・ムーツの体育をとり入れるのであ

る。

#### 4. ヤーンとドイツの国状

Friedrich Lwdwig Jahn (1778—1852) の生れたプロシヤは、18世紀の終りから、19世紀の初めにかけてドイツ全土の指導的立場にあった。16世紀初頭においてドイツは、他の国が中央集権的国家を作って勢力を強大にしていたのに対して、分裂の状態にあり、国民意識は当時、ルターの宗教改革と結びつき、ローマ教皇庁に対する反発となって現われ、国家統一のきざしがみられたが、ルターの唱えた、キリスト者の自由によって農民が立ち上がり、農民戦争をはじめたけれども、自由を要求する農民階級の希望は、ルター自身の戒めと領主の反撃にあって達成出来ず、依然として分裂の状態を続けざるを得なかった。農民戦争によって領主の権力は安定し、農民は再び立ち上がれなかった。宗教的対立である筈の30年戦争（政治的国際的事情による外国の介入によって、1618年から1648年にわたる長期間の戦争）がウェストファリア条約によって終りを告げたが、ドイツ諸領邦の完全な主権が認められ、統一は困難な状態になった。ドイツは自国の自由を他国のフランスとスエーデンによって保証されることになり、特にフランスの圧力を受け、戦争により荒廃したドイツはまさにフランスの植民地と化した。

この荒廃したドイツの中であって、比較的荒らされなかった東方ドイツのプロシヤは勢力を増し、30年戦争後はオーストリアに次ぐドイツの中の大国となり、7年戦争（1756～63）によってオーストリアをしのいでドイツにおける指導的な国となった。当時のプロシヤは啓蒙専制君主といわれたフリードリヒ大王のもとで、先進国に対抗し得る国力を養うことにつとめたのである。フリードリヒ大王（在位1740～86年）亡きあと、フリードリヒ・ヴィルヘルム2世王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世王の政策不振によって国力は衰えていた。1806年10月、イエナおよびアウエルシュテットの戦いでナポレオン軍に大敗したプロシヤは、1807年7月チルジット条約を結び、領土を大きく削られ、守備隊の駐留と莫大な賠償金が課せられた。このような屈辱的な状態にあったプロ

シャにあって、はじめて民族意識がめざめた。その中心人物は、イギリス自由主義思想をうけたシュタインであり、1807年、10月勅令によって農奴解放を実施し、1810年以後彼の後をついだハルデンベルクとによって経済的自由主義を実現しようとした。彼の改革が民衆の国家的関心を高めると同時にシャルンホルスト、グナイゼナウの軍制改革、フンボルト、フィヒテによる教育改革、特にフィヒテは1807年から8年にかけての冬「ドイツ国民に告ぐ」と題して仏軍のじゅうりんだにあるベルリンで、ドイツを救うには教育改革によるのみであると説き、民族的自覚をうながした。

1813年ドイツ国内に民族意識に支えられた愛国者たちによって解放戦争が勝利に終るが、彼らの希望である祖国統一は、王侯の裏切りによってかなえられなかった。1815年のウィーン会議の結果は、反動的なドイツ連邦であった。

プロシャ生れのヤーンは、ザルツヴェデルの高等学校を終り、Halleの大学に学んだが、大学教育を全うせず、そこを去り、ドイツ諸国の中を旅した。貴族の息子の家庭教師を何度かしたのち、1810年ベルリンのグラウエクロスター学校の数学と歴史の教師となった。またプラマン少年学校でも教えることになり、そこでは、以前から、土曜日と水曜日の半休日の午後、時折教師は生徒と連れだって田園に出かける習慣があったが、ヤーンは一層奨励し、ベルリン郊外のハーゼンハイデの森に出かけた。ここに彼の完全な国民形成の一手段としての体育がはじめられるのである。

1810年ヤーンは“Deutsches Volkstum”「ドイツ国民性」を出版した。フィヒテは「ドイツ国民に告ぐ」「Reden an die deutsche Nation」におけるドイツ人の国家意識を盛り上げようとした、特に道徳的頹廢からの救済を考えた。ドイツ民族は太初以来なんらの外来の汚染を受けずに純潔な言語を用いており、純粋な民族であり真に神の民であるとし、また、植民地的言語、風俗、商品など外来の文化から民族を守ることは当時の考えであった。ヤーンの Volkstum はフィヒテの Nation と同一ではなかったが、殆んどかわりはなかった。ヤーンにおいては共通文化と同じ民族としての血縁関係に対する自覚とによって独立したドイツ統一国家を形成することにあつたのである。ドイツ統一国家を作



り上げる能力をそなえた国民を形成するために、国民教育を強調し、祖国防衛の能力を備えた有能な国民を体育によって形成することを期待した。

以前から（1810年）簡単な運動や遊戯をおこなっていたハーゼンハイデの森に、1811年6月新たに素朴ではあったが懸垂横木、登攀索、傾斜梯子、梯子、平均台、水平棒、高跳び、棒高とび用脚柱、走巾跳び用の溝、8字型のトラック、レスリング場などを備えた体育場が出来た。ヤーンは、さらさないリネンのジャケットに長ズボンの体操服を定め、のちに **Turner** のトレードマークになるが、この体操服は、少年の間の階級差をとりのぞき、社会的に平等な感情を植えつけることになった。この年の7月と8月には火曜日と金曜日にも集まり週4回 **Turnen** をおこなうことになり、参加者が増加する一方だった。

1812年にはこの体育場が一段と拡張され、新しい走路、跳躍場、平行棒、跳躍台や跳躍、懸垂用の器具などが加わり施設もより精巧になった。この体操場を大人のために日曜日や休日には解放して、彼らの希望をかなえてやった。

彼は、この体操練習を身体の鍛練のみには考えず、精神的道徳的訓練と考えたのである。彼は、この若者たちにドイツ統一国家建設の夢を託して指導した。前述のナポレオンに対する解放戦争が1813年3月17日、プロシヤが遂に意を決してフランスに宣戦したことによって始まると、ヤーンは同僚のフリーゼンと共に第1回の義勇軍に参加した。そして10月、ライプツィヒの「諸国民の戦争」でドイツ軍の勝利に終り、ヤーンは帰還するとまもなく、のちに **Turner** の指導書となる「ドイツ体操術」**Deutsche Turnkunst** を公けにした。

フランス軍が祖国を去るや、全ドイツに愛国主義は広まり、体操も普及した。彼の愛国心は甚だ強く、ドイツ民族意識を高揚するために外来語の排除、歴史の教育などを強調したが、**Gymnastik** を **Turnen** と呼んだごとく、用語はすべてドイツ語で書かれた。このことはフリードリヒ大王がドイツ語を満足に話せなかったことや、愛国者のシュタインでさえも日常会話にフランス語を使ったことから考えてもかるように、重要なことであった。

一方、体操団体は、その指導者として偉大な英雄と仰ぐヤーンの国家統一の理想からして、メッテルニヒの反動的政治に反感を持った。フランスから解放

されたにもかかわらず、統一はなされなかったので各地で政治活動を行うことになる。

ヤーンは1817～18年にかけて「ドイツ国民性」に関する講演をおこない、反動的政府を攻撃した。

他方では、イエナ大学において従来の悪習を改めて親睦に基く抱括的団体としての学生組合が1815年に結成された。この学生組合，“**Burschenschaften**”は、本来は政治的団体ではないが、学園の自由と祖国の精神的統一を唱えた彼らの運動がメッテルニヒの政策と対立した。

1818年メッテルニヒは、宰相会議において学生組合と体操団体を革命の温床であると宣言し、イエナ大学で学生組合の一員であった **Karl Ludwig Sand** が反動主義の文学者である **August von Kotzebue** を暗殺したこと（1819）によって、たちまち体操団体と学生組合の弾圧にのり出した。この機会に全ドイツ自由主義運動に公然たる弾圧を開始したのである。学生の **Karl Sand** は捕えられて処刑されたが、このあと、ヤーンは煽動の罪に問われて同年（1819年）7月に捕えられ1825年まで放免されなかった。学生組合と体操団体は解散させられた。ドイツ連邦ではプロシヤにならって **Turnen** の禁止をした国もあり、続けた国もあった。ヤーンは放免後も居住に制限を加えられ、二度と体操指導には当らなかつた。ツルネン禁止令が解かれる度毎に体操家は政活動を繰り返した。そしてはまた解散させられたのである。

1840年プロシヤ王位を継いだフリードリヒ・ヴィルヘルム4世は、体操運動の禁令をといたが、1820年から40年にかけて、体操愛好家は室内で秘かに運動を続けたのである。ヴィルヘルム4世王によって鉄十字の勲章を授けられたヤーンは、やはり体操活動には入らず1852年、彼が悲願としたドイツ国家の統一をみることなくこの世を去った。

ツルネンは1860年、体操家団体が政治活動から手を引くことになって、着実に発展していった。1860年、体操団体（体操協会）は統合してドイツ体操連盟を結成し、会員は急激に増加していったのである。

## 5. ヤーンの果した役割

ヤーンは身体活動の面では素朴な設備が少くてすむ自然的戸外活動を求めたのに対して結局器械を主とする体操を育成することになった。また、彼の体育思想は国家統一をめざした国民主義的自由主義としての立場をとり同時代人の共感を得て国民主義運動の盛り上がりの一環となったのである。彼は運動においてはグーツ・ムーツを、思想においてはファイヒテをその先駆者としてもっているし、彼自身の完全な独創によって Turnen を始めたのではなかったが、彼の言行が当時の支配的風潮である国民主義思想と一致したのである。

しかしながらヤーンの理想があったからこそ、彼の運動は後の発展をもたらした、現在の体操に先鞭をつけたのであった。

### 参 考 文 献

- ドイツ史 林健太郎編
- ドイツ史 ジャック・ドローズ著 椋川一朗訳
- 体育学原論 前川峯雄著
- 体育の哲学 浅井浅一 川村英男 近藤英男 佐々木久吉 林巖共著
- 保健体育学大系 5
- 体育の世界史 D・B・ヴァンダーレン E・O・ミッチェル B・L・ベネット共著  
加藤橋夫訳
- 世界体育史 ライス 今村嘉雄 石井トミ共訳
- 図説世界体育史 東京教育大学体育研究室編
- 新体育科事典 前川峯雄 佐藤正 石渡義一 石河利寛 畠中富久子
- 体育大辞典 今村嬉雄ほか
- 械体操事典 浜田靖一 竹本正男 河野昭共著
- 体育学研究 第7巻 第1号 Deutsches Volkstum にみられる Jahn の体育思想  
山本徳郎
- 体育学研究 第4巻 第1号 ヤーンのツルネンにおける場の研究(5) 石橋武彦  
相良宏行
- 体育学研究 第2巻 第7号 ヤーンのツルチンにおける場の研究 石橋武彦 青  
木寛一
- 体育学研究 第7巻 第1号 グーツムーツの体育思想 成田十郎
- 教育哲学 長田新著
- ホメーロス 高津春繁 呉茂一訳

- 西洋哲学史 上, 下 シュヴェーグラー 谷川徹之 松村一人訳
- History of Physiral Education: Hackensmith
- Phylqsophy and Principles of Physical Education: Charles C. Cowell, Wellman L.  
France
- Health, Physical Education, and Recreation: Langton, Duncan, Brighthill
- De la Gymnastique aux Sports Moderne: Jacques Ulman
- 研究部報 第9号 (科学研究調査部)